

人づくり No.1をめざすまちプロジェクトに関する
調査特別委員会資料

人づくりNo.1をめざすまちプロジェクトの検討報告

令和4年7月

企画部、こども未来部、教育部、
市民協創部、健康部、産業部

<目 次>

1 プロジェクトの趣旨について……………	3
1-1 プロジェクトが目指すもの……………	3
1-2 「人づくり」の定義……………	3
1-3 本プロジェクトにおける目指すまちの姿のイメージについて……………	4
2 基本方針と取り組みの方向性について……………	5
2-1 体系図……………	5
2-2 指標……………	6
3 本プロジェクトにおける今後の取り組みについて……………	7
3-1 子育てしやすい環境づくり……………	7
3-2 子どもが学びやすい環境づくり……………	9
3-3 若者が成長、ステップアップしやすい環境づくり……………	10
4 市内外への情報発信……………	11
5 プロジェクトの推進にあたって……………	12
<参考資料> ……………	13

1 プロジェクトの趣旨について

1-1 プロジェクトが目指すもの

多くの人から住みたい、暮らし続けたい、将来帰ってきたいと思ってもらえるような魅力のあるまちは、そこに関わる人の手によって作られます。人を育むことで、その人たちがまちの魅力を高めてくれます。そして、一層多くの人々が集い、活気づいたまちは、人が成長する土壌となるといった好循環が生まれます。

「人づくりNo.1をめざすまちプロジェクト」（以下、「本プロジェクト」）は、本市のまちづくりに携わる人を育んでいくために、まずは、子育てや教育の分野に重点を置き、「人づくり」に特化した施策をとりまとめることを目的とし、令和3年6月に開始しました。

本プロジェクトでは、豊橋市が子育てや教育に手厚いまちづくりを進め、それを市民に知ってもらうことが重要だと考えます。現在住んでいる市民の方たちに豊橋が住みやすく魅力あるまちであることを実感してもらうことができれば、市外の方も同じように感じていただけると考えています。

ずっと住み続けたい、進学や仕事のために転出してもいずれ戻ってきたいと思ってもらえるようなまちになることで、長期的には定住促進、移住促進にもつながっていくものと考えています。

なお、首都圏等からの移住を促すためには、魅力的な働く場の創出なども重要であるため、本プロジェクト以外においても事業を実施していきます。

1-2 「人づくり」の定義

本プロジェクトにおいて、「人づくり」とは、子育てや教育に力を入れることで、愛着を持って豊橋に住み続けてくれる人や、市外から豊橋の発展を応援してくれる人など、様々な形で将来の豊橋のまちづくりに携わる人を育むことであると定義します。

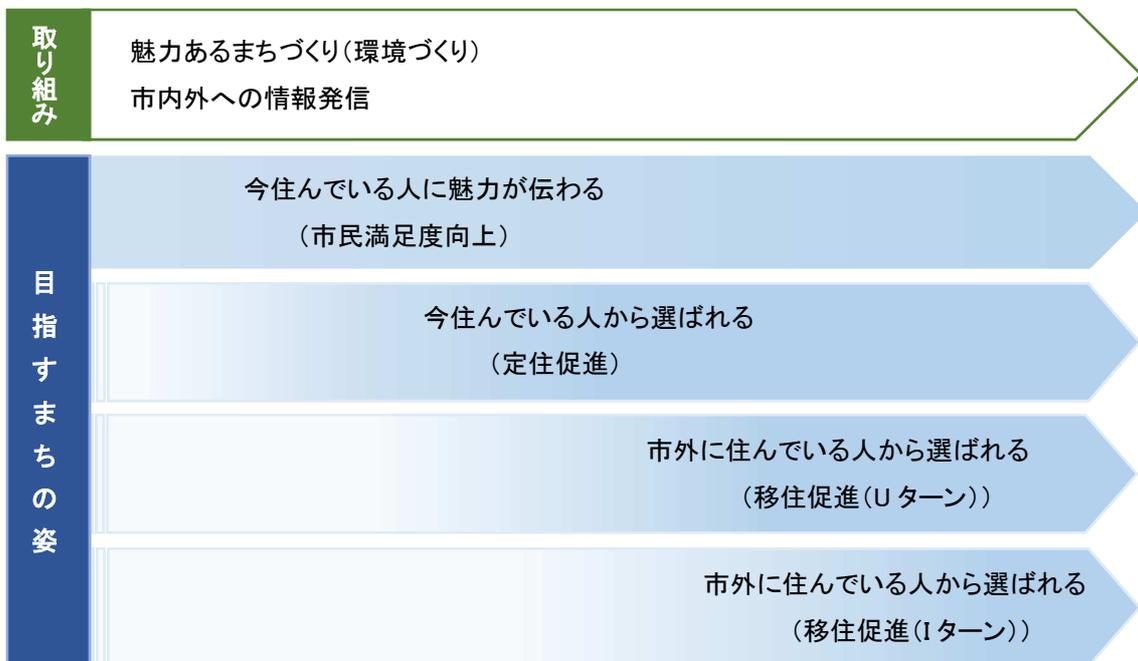
また、一人ひとりの成長を促すことはもちろん、成長するための環境を整えることも「人づくり」に含まれると考えています。

1-3 本プロジェクトにおける目指すまちの姿のイメージについて

本プロジェクトを進めることにより到達する状態(目指すまちの姿)のイメージを、次の通り示します。

まずは魅力あるまちづくりを進めることで、市民満足度が向上し、その結果、市内ひいては市外の人からも選ばれるまちになると考えます。

プロジェクト設置期間(令和3～5年度、令和6年度総括)においては、取り組みを進めることで、市民満足度が向上し、定住が促進されている状態を目指すこととします。



2 基本方針と取り組みの方向性について

2-1 体系図



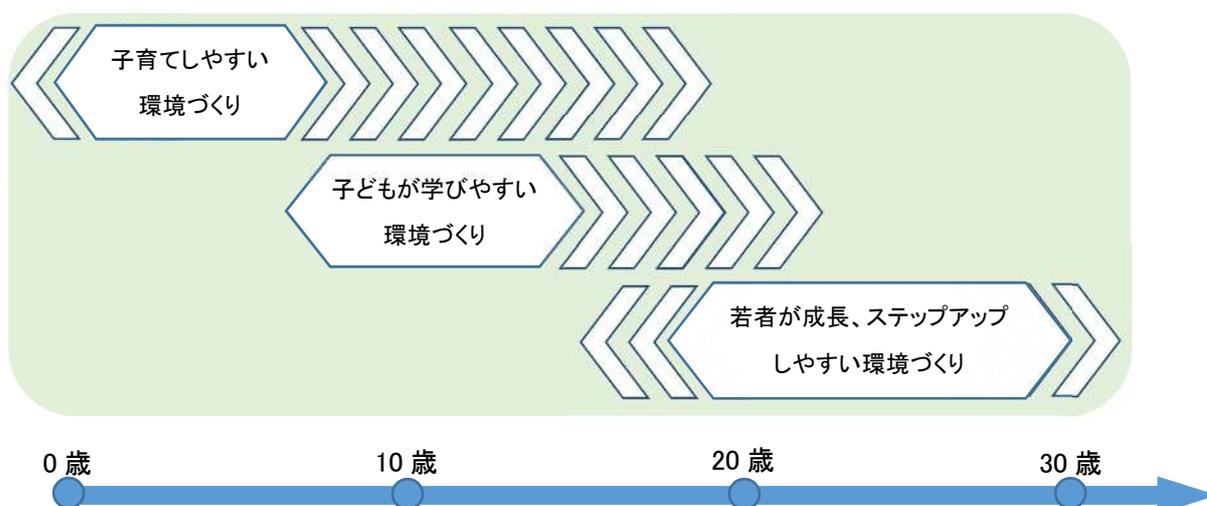
2-2 指標

本プロジェクトは、「第6次豊橋市総合計画」及び「まちづくり戦略（第2期豊橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略）」を、短期集中的に実施する取り組みとして位置づけられるものです。そのため、本プロジェクトの成果の確認については、総合計画の分野別計画で設定した「指標」やまちづくり戦略の個別戦略ごとに設定した「数値目標」、施策の基本方針の「重要業績評価指標（KPI）」、「豊橋市市民意識調査」の結果などを活用することから、本プロジェクトにおいては独自の指標を設定しません。

3 本プロジェクトにおける今後の取り組みについて

今後のプロジェクトにおいては、それぞれの環境づくりに応じた取り組みを重点的に検討し推進するとともに、今後の定住、移住促進も見据え戦略的なPRも進めていきます。

◆施策のターゲットイメージ



3-1 子育てしやすい環境づくり

住民ニーズと現状とのギャップを分析しながら、実情に応じた効果的な取り組みを検討し、子育てがしやすい環境づくりを進めていきます。

<現状と課題>

- ・平成30年度に豊橋市が実施した「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」によると、理想とする子どもの数と実際の子どもの数について、全体の約38%の方が理想よりも少ないと回答しています。
- ・その理由としては、「子育てや教育にかかる費用が大きい」との回答が最も多く、次に多い回答は、「仕事と育児の両立が難しい」となっており、その対策が必要です。

[図表1]

【ターゲットの考え方】

現在、子育てをしている方、または子育てをこれからしようと考えている方をターゲットとします。

○ 希望が叶う妊娠・出産

若者に対して性に関する適切な知識の普及やプレコンセプションケア（将来の妊娠のための健康管理を促す取り組み）を促進するほか、不妊症や不育症の方への支援を充実し、望んだ時に妊娠・出産ができるように健康教育や相談体制の充実を図ります。

取り組み例 ・性と健康の相談センター事業 等

○ きめ細やかなニーズに応える子育て支援

ニーズに合わせた多様な保育サービスの展開を図るとともに、保育士の確実な確保など、将来にわたる安定的な保育サービスの提供に向けた対応を進めていきます。また、女性の負担が特に重いとされる育児や家事の分野において、時代の変化によるニーズを捉えて、新たな取り組みを検討していきます。

取り組み例 ・特別支援保育等の充実
・保育士の確保
・乳児期子育て支援（家事支援） 等

○ 経済的負担の軽減

令和4年度から所得制限なく第2子の保育料無償化や副食費の軽減など、0歳から5歳までの子どもにかかる経済的負担の軽減を拡大しているなか、引き続き、子育て世帯における経済的な負担軽減を検討していきます。

取り組み例 ・小学校給食費無償化 等

○ しごとと子育ての両立支援

希望に応じてしごとと子育てを両立できる環境整備がさらに求められるなか、特に男性が子育てに関わる時間の増加につながる取り組みを検討していきます（育児休業の取得状況については〔図表2〕を参照）。

取り組み例 ・男性育児休業取得推進 等

3-2 子どもが学びやすい環境づくり

子どもたちが安心して教育を受けることができ、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえながら、子どもたちの学びを応援する環境づくりを進めていきます。

<現状と課題>

- ・子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現し、教育の質を向上させるためには、学校教育の基盤的なツールとして ICT を活用することが必要不可欠とされています。
- ・令和3年度に実施した「豊橋市市民意識調査」によると、年代が低くなるほど豊橋市に対して愛着度が低くなる傾向があることから、子どもの頃から、郷土への関心を高め、郷土を大切にすることを育む必要があります。[図表3]
- ・様々な問題を抱える子どもや保護者が安心して相談できる体制を構築するとともに、教師が子ども一人ひとりとじっくりと向き合い、常に寄り添うことができる環境づくりを進める必要があります。[図表4、5]

【ターゲットの考え方】

主に豊橋市内の小中学校や特別支援学校に通う児童・生徒と、その保護者をターゲットとします。

○ 質の高い教育環境の整備

子どもが自らの興味や関心に応じて学習できる個別最適化学習を進めるとともに、効果的に協働的な学習を進め、子どもたちの「学びたい」という気持ちを引き出すことのできる教育環境の整備を進めていきます。

取り組み例 ・とよはし版 GIGA スクールの充実
・郷土学習の充実 等

○ きめ細かな教育環境の整備

すべての子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、教育相談をはじめとした支援体制を整えるとともに、教員が心身ともに健康で、ゆとりをもって子どもと向き合うことのできる教育環境の整備を進めていきます。

取り組み例 ・教育相談の充実
・教員の多忙化解消による子どもに寄り添う時間の確保 等

○ 多彩な学びや交流機会の提供

子どもたちが放課後を安全・安心に過ごすことができる環境を整え、学校・家庭・地域と連携を図りながら、多彩な人材を活用した様々な体験活動をとおして、子どもの健全育成や社会性の向上、能力発掘を進めていきます。

取り組み例 ・のびるん d e スクールの充実 等

3-3 若者が成長、ステップアップしやすい環境づくり

豊橋で働く若者が、能力や資格の取得等により、生き活きとやりがいを持って働くことができるよう、若者の成長とステップアップしやすい環境づくりを進めていきます。

<現状と課題>

- ・「平成30年版子供・若者白書」によると、就職後の学びの継続希望に関する問いに対して、約78%の方が、「希望する」または「条件が整えば、希望する」と回答していることから、学びの環境を充実させる必要があります。[図表6]
- ・「令和2年国勢調査」によると、豊橋市の非正規雇用労働者は約5万人で、雇用労働者の約35%を占めています。正規雇用で働くことを目指す非正規雇用労働者がスキルアップできる環境を充実させる必要があります。[図表7]

【ターゲットの考え方】

就職を考えている学生や、更なるステップアップを考えている社会人など、主に10代から30代の若い世代をターゲットとします。

○ キャリアアップ支援(正規雇用化)

企業の成長にとって不可欠である時代の変化に対応できる人材の育成と、市内で働く若者が、自身のステップアップのために必要な能力や資格等を身に着けることのできる環境を産学官が連携を図りながら充実させることで、正規雇用化の促進にもつなげていきます。

- 取り組み例**
- ・とよはし産業人材育成センターを活用した人材育成支援環境の充実
 - ・人材育成支援メニューの充実 等

○ とよはしでの就業支援

市内企業で活躍してもらうため、ハローワーク等と連携を図りながら、就職を決める前のできるだけ早い段階から、学生が地元企業について深く知る機会を提供していきます。

- 取り組み例**
- ・高校生の企業面接体験会の充実
 - ・大学生向け合同企業説明会における就職活動支援の充実 等

4 市内外への情報発信

本プロジェクトにより目指すまちの姿につなげていくためには、最も効果的なターゲットを設定し、ターゲットに合わせたコンテンツ、ツール、メディア、タイミングを選択する必要があります。

本プロジェクトでは、市民満足度が高まるよう、着実にまちづくりを進める中、ライフステージごとのタイミングを捉え、市内外に情報発信を行っていきます。

<現状と課題>

- ・令和3年に実施した「住民基本台帳人口移動報告」によると、20代から30代前半の転出入が多く、特に20代の転出超過が顕著になっています。[図表8]
- ・令和3年度に実施した「豊橋市市民意識調査」によると、「とても愛着がある」、「やや愛着がある」と回答した人を合わせた割合が76.5%である一方、「とても自慢できる」、「やや自慢できる」と回答した人を合わせた割合が53.7%となっており、市内在住者に市の魅力が十分に伝わっていない状況です。[図表3]
- ・令和3年度に実施した「豊橋市イメージアンケート調査」によると、「名前を知っている」と回答した人が96.9%である一方、「特に連想するものはない」が64.1%となっており、知名度は高いが具体的なイメージがないことが課題となっています。[図表9]
- ・令和4年度にこども未来館を利用する子育て世代を対象に、定住を決めたタイミングやきっかけに関する聞き取り調査を行ったところ、小学生以下の子どもがいる人の約8割がすでに定住する場所を決めていると回答しました。[図表10]

【情報発信のターゲット】

若い世代の転出入が多いことや、小学生以下の子どもがいる人の約8割がすでに定住する場所を決めているという結果から、施策のターゲットの中でも特に以下の3つにターゲットを絞り、集中的に情報発信を行います。

- ①小学校入学前～低学年の子を持つ世帯
- ②就職を考えている若者
- ③結婚を考えている若者

○ まちとしごとの魅力発信

令和4年度までに実施した分析結果を活用し、ターゲットに対して効果的なプロモーションを行うとともに、本市に愛着を持ち自ら情報発信を行う人を増やします。

- 取り組み例**
- ・移住定住施策の充実
 - ・豊橋の魅力発信 等

5 プロジェクトの推進にあたって

プロジェクトに掲げる事業の企画及び実施にあたっての視点を以下に示します。

- ・ターゲットに対して訴求力のある、高い効果が見込まれる施策から取り組む
- ・今後の財政見通しを勘案しつつ、実施時期を精査しながら、戦略的かつ効率的な施策展開に努める
- ・行財政改革プランに基づき、持続可能で健全な財政運営のもとに進める
- ・プロジェクトの評価については、総合計画の指標や各事業の行政評価などの結果をとりまとめ総合的に評価する

<スケジュール>

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
調査・検討 ・現状の分析 ・ターゲットの設定 ・施策の体系化 ・次年度新規・拡充 事業検討	施策展開 ・進捗状況と課題の 把握 ・次年度新規・拡充 事業検討 ・次年度事業への反 映 ・効果的なプロモー ション方法の検 討	施策展開 ・進捗状況と課題の 把握 ・次年度新規・拡充 事業検討 ・次年度事業への反 映	施策展開・総括

〈参考資料〉

[図表1]

◆理想とする子どもの数と実際の子どもの数との関係

回答者数(人)

		理想						計
		1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	
実 際	1人	129	686	147	6	1	10	979
	2人	20	1,847	1,308	52	9	14	3,250
	3人	13	210	1,190	139	36	19	1,607
	4人	0	41	70	111	26	20	268
	5人以上	0	5	21	6	23	13	68
	無回答	7	38	25	2	1	100	173
計		169	2,827	2,761	316	96	176	6,345

理想の子どもの数よりも少なかった方(割合)

2,410 (38.0%)

◆子どもの数が理想よりも少ない理由(複数回答)

理由	回答者数(人)	割合
1 子育てや教育にかかる費用が大きい	1,530	63.5%
2 仕事と育児の両立が難しい	935	38.8%
3 住宅が狭い	368	15.3%
4 子どもを育てるには生活環境が悪い	95	3.9%
5 教育・保育サービスが十分ではない	251	10.4%
6 育児の身体的、精神的負担に耐えられない	353	14.6%
7 子育てよりも自分たちの生活を楽しみたい	88	3.7%
8 配偶者や家族が子どもをあまり好きではない	57	2.4%
9 子育てを手助けしてくれる人がいない	386	16.0%
10 高年齢や健康などの問題で出産が難しい	782	32.4%
11 子どもの将来の環境に不安がある	326	13.5%
12 その他	421	17.5%
無回答	42	1.7%

◆所得分布(子育てや教育にかかる費用が大きいを理由とした方)

子育てや教育にかかる費用が大きい	回答者数(人)	割合
1 収入はない	7	0.5%
2 250万円未満	72	4.7%
3 250～350万円未満	156	10.2%
4 350～500万円未満	467	30.5%
5 500～700万円未満	526	34.4%
6 700～1,000万円未満	225	14.7%
7 1,000万円以上	51	3.3%
無回答	26	1.7%
計	1,530	100.0%

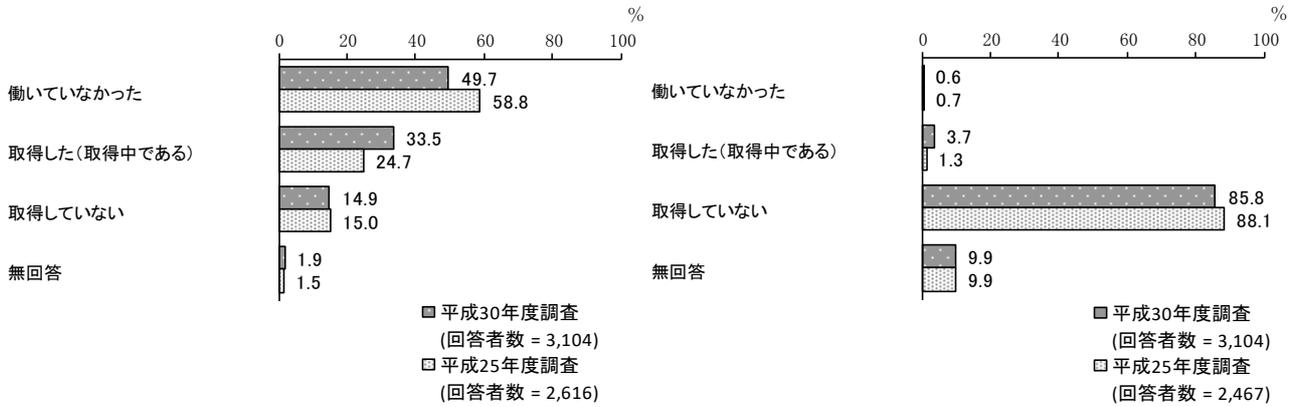
資料:平成30年度豊橋市子ども・子育て支援に関するニーズ調査

[図表2]

◆育児休業の取得状況

○母親

○父親

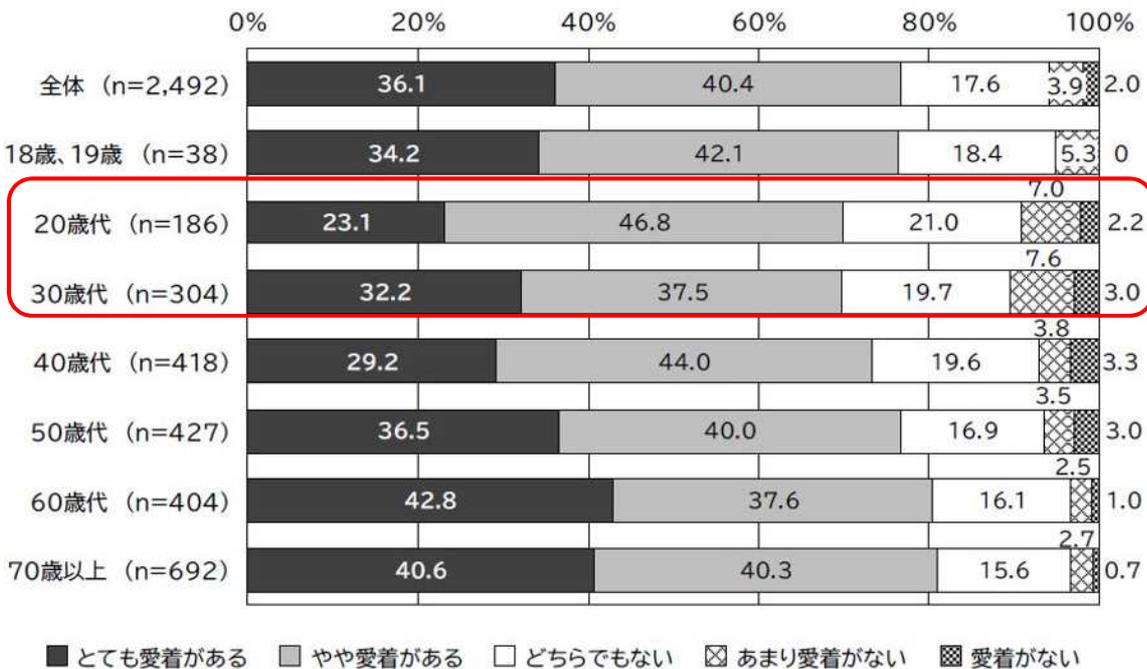


出典:平成30年度豊橋市子ども・子育て支援に関するニーズ調査

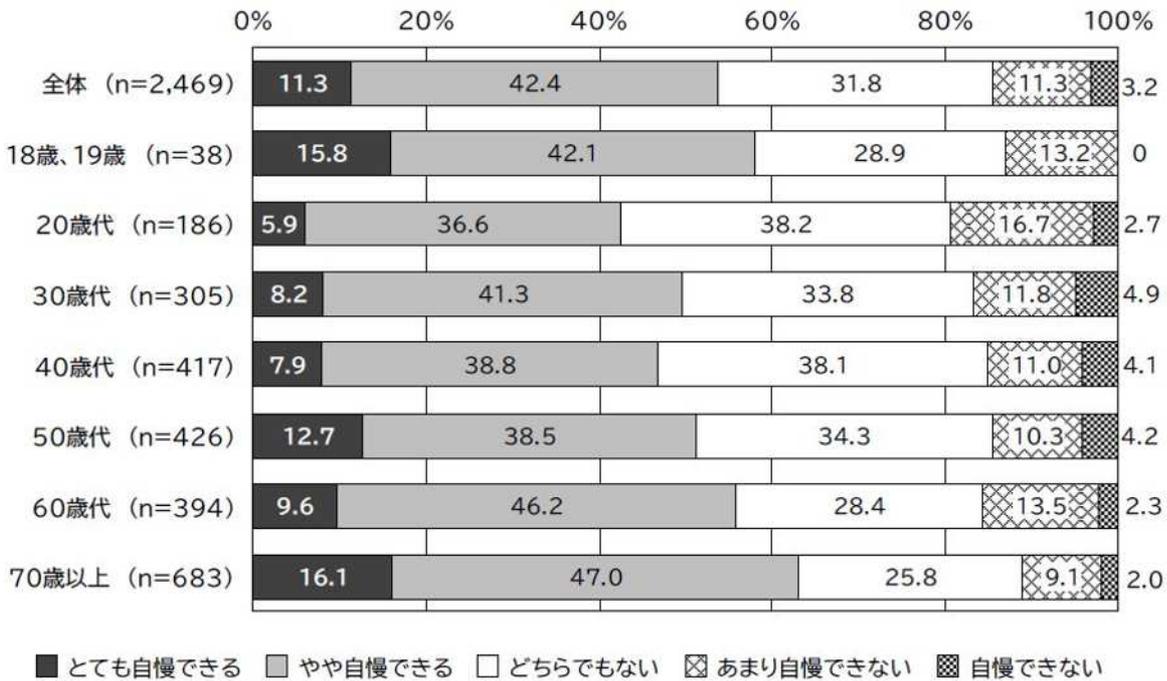
[図表3]

◆豊橋市民の愛着度・自慢度

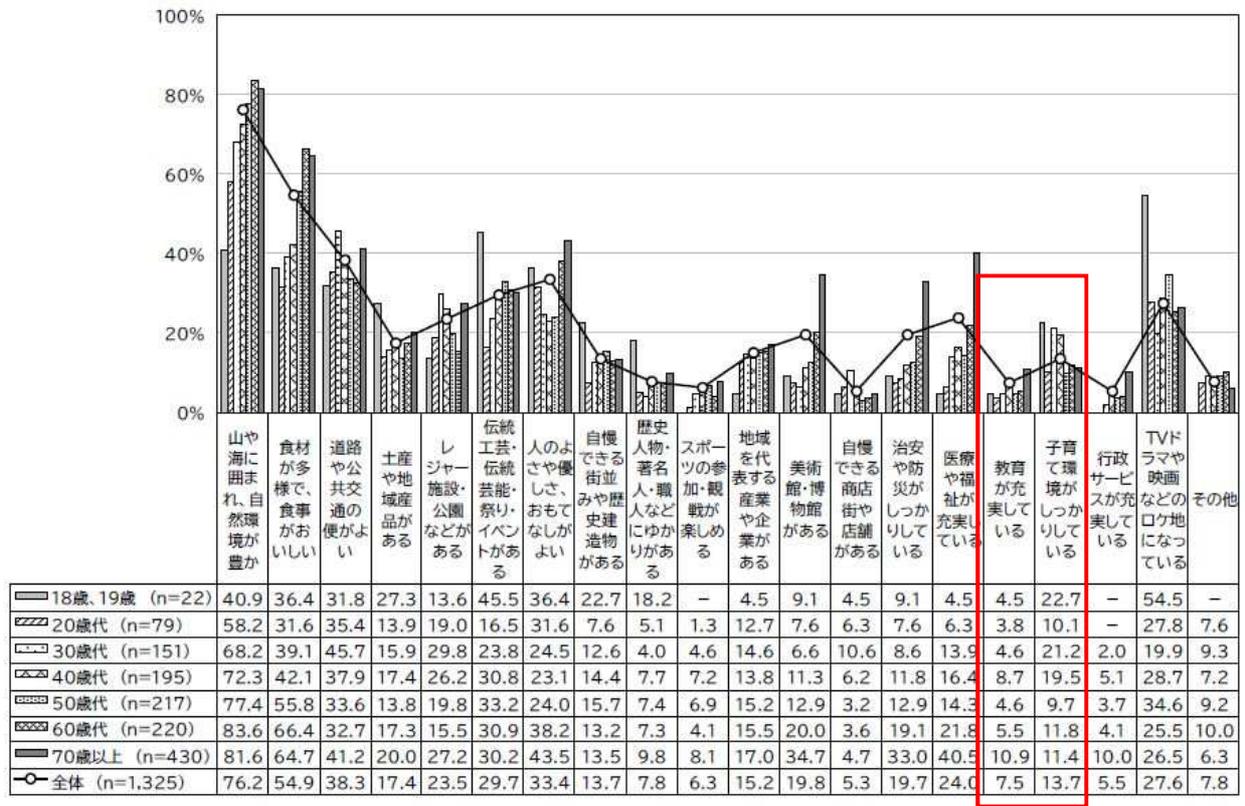
問1 豊橋市に対して愛着がありますか。(n=2,492)



問2 豊橋市を自慢できますか。(n=2,469)



問3 豊橋市のどのようなことが自慢できますか。(複数回答：n=1,325)



出典：令和3年度豊橋市市民意識調査

[図表4]

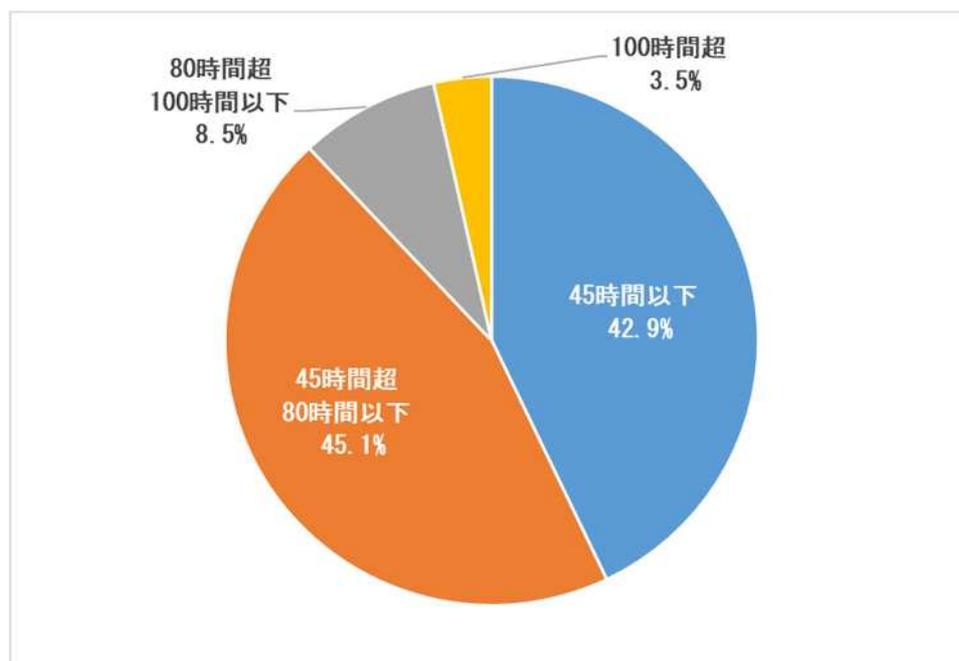
◆子育て(教育含む)をする上で、気軽に相談できる相手や場所の有無

	就学前児童		就学児童		差
	人数	割合	人数	割合	
いる/ある	2,989人	96.3%	3,013人	93.0%	▲3.3P
いない/ない	92人	3.0%	176人	5.4%	+2.4P
無回答	23人	0.7%	52人	1.6%	+0.9P
計	3,104人	100%	3,241人	100%	

資料:平成30年度豊橋市子ども・子育て支援に関するニーズ調査

[図表5]

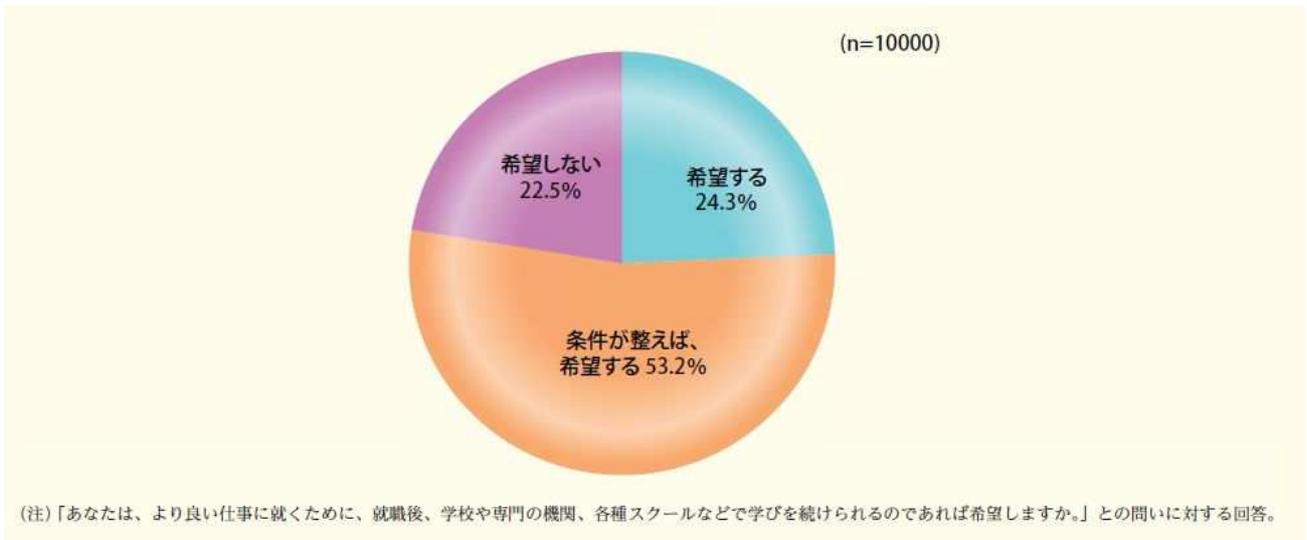
◆教職員の勤務時間外在校時間の実態



資料:令和3年度豊橋市教育委員会在校等時間の実態調査(6月)

[図表6]

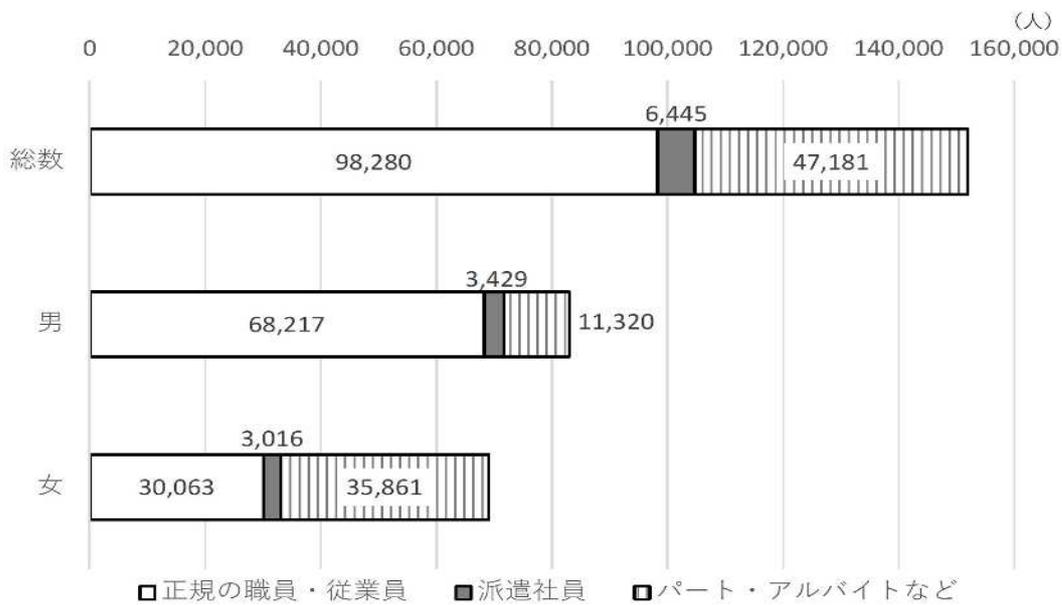
◆就職後の学びの継続希望



出典:平成30年版 子供・若者白書

[図表7]

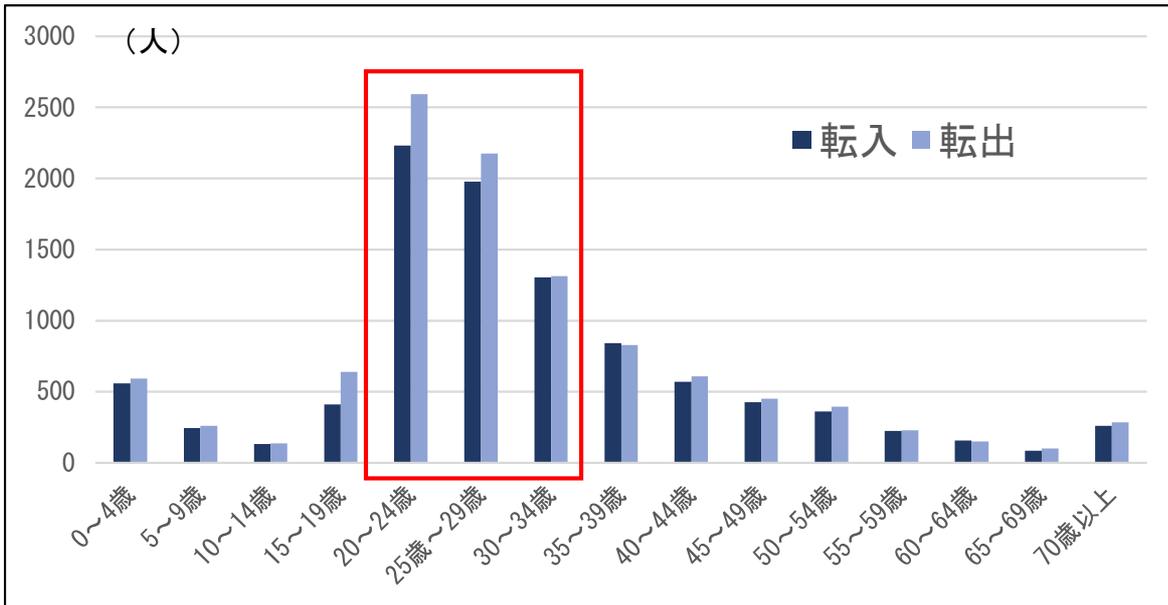
◆豊橋市における雇用者の雇用形態



出典:令和2年国勢調査

[図表8]

◆若者の転出超過

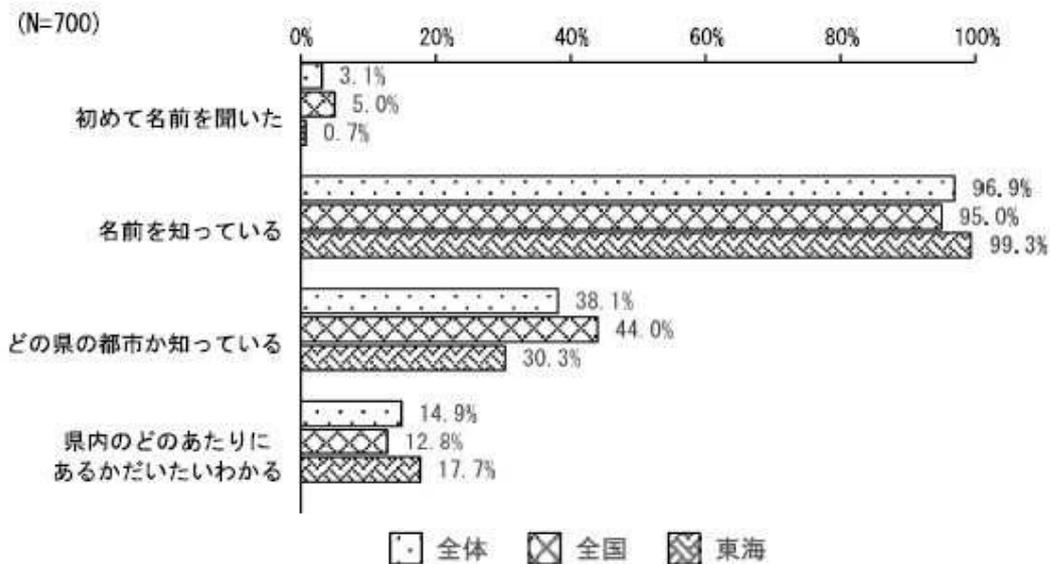


資料: 令和3年住民基本台帳人口移動報告(豊橋市)

[図表9]

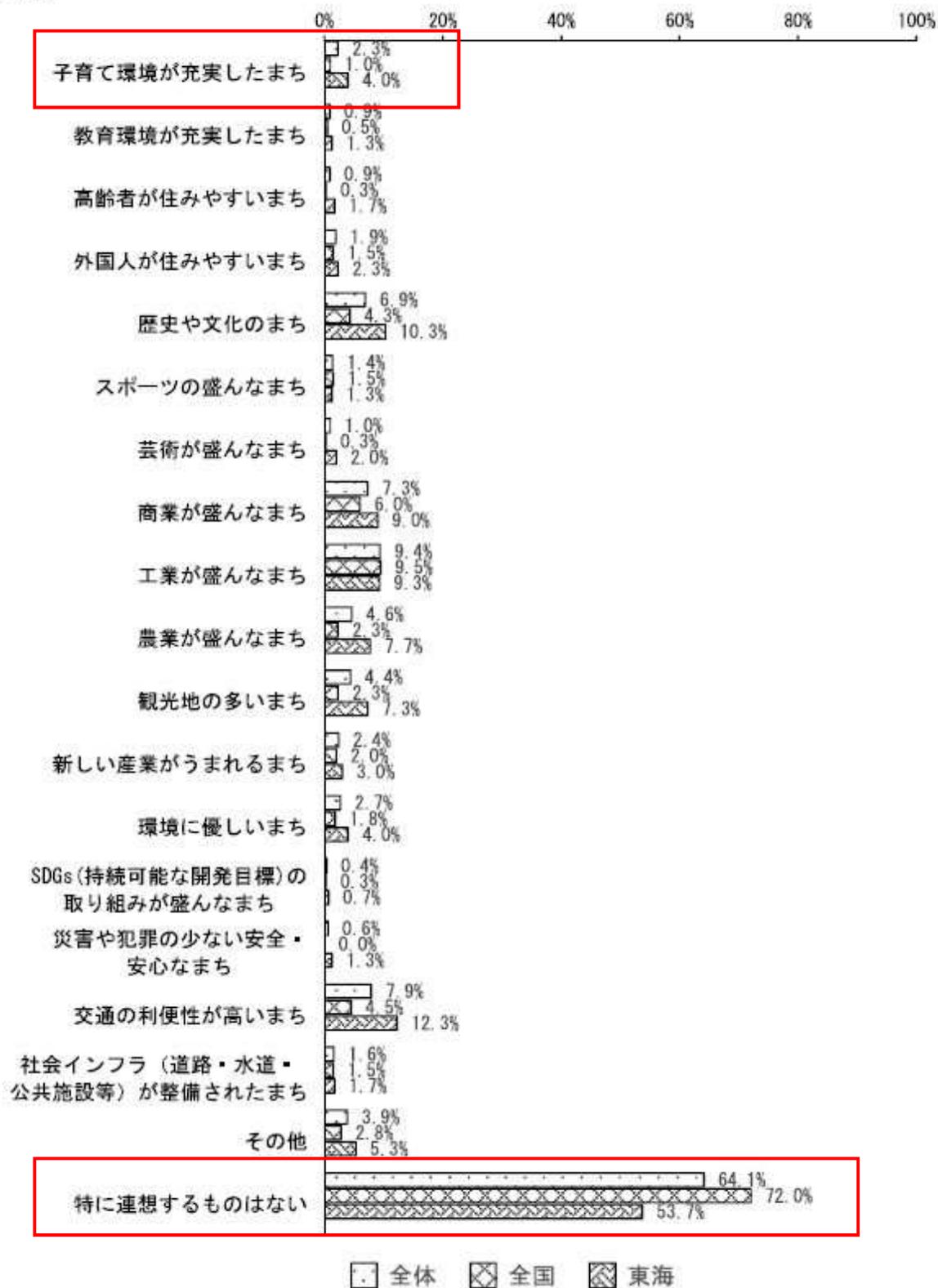
◆豊橋市に対する市外からのイメージ

問1. 東海地方の10都市について、知っていますか。
 あてはまるもの全て選んでください。(それぞれいくつでも)
<豊橋市>



問3-1. 「豊橋市」と聞いてどんなまちを連想しますか。

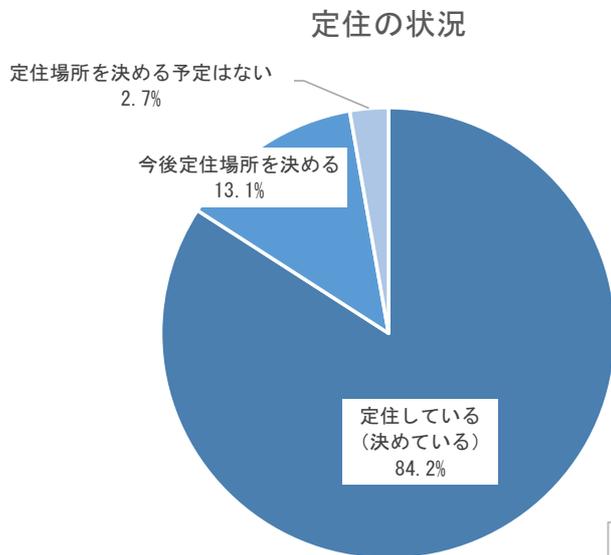
(N=700)



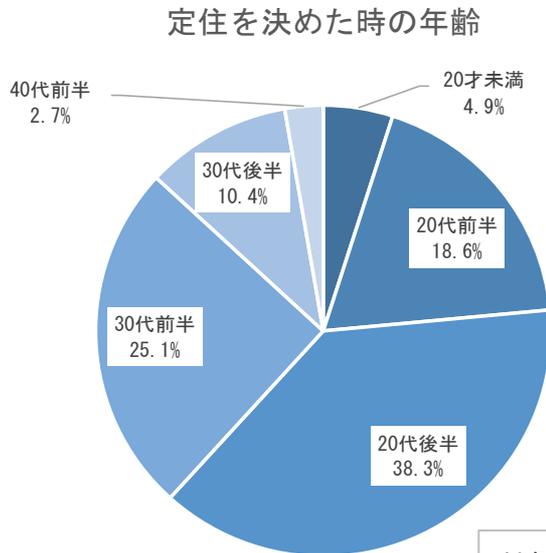
出典: 令和3年度豊橋市イメージアンケート調査

[図表10]

◆定住を決めた時期



対象：小学生以下の子を持つ人
(n=223)



対象：上記の内、「定住している (決めている)」と回答した人
(n=183)

資料：令和4年度こども未来館における定住に関する聞き取り調査